

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3689712号  
(P3689712)

(45) 発行日 平成17年8月31日(2005.8.31)

(24) 登録日 平成17年6月24日(2005.6.24)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

B60P 1/02

F I

B60P 1/02

Z

請求項の数 2 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2003-398559 (P2003-398559)	(73) 特許権者	594045126
(22) 出願日	平成15年11月28日(2003.11.28)		湖南工業株式会社
(65) 公開番号	特開2005-153815 (P2005-153815A)		滋賀県甲賀郡甲西町大池町2番地3
(43) 公開日	平成17年6月16日(2005.6.16)	(74) 代理人	100079131
審査請求日	平成15年11月28日(2003.11.28)		弁理士 石井 暁夫
早期審査対象出願		(74) 代理人	100096747
			弁理士 東野 正
		(74) 代理人	100099966
			弁理士 西 博幸
		(72) 発明者	浅野 良治
			滋賀県甲賀郡甲西町大池町2番地3
			湖南工業株式会社内
		審査官	黒瀬 雅一
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 荷物載せ台

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

トラックの箱形荷台を上下に仕切るテーブル本体に、トラックの箱形荷台の約半分の高さの脚を折畳み自在に設ける荷物載せ台において、矩形のテーブル本体の対向する側部に脚ホルダを固定させ、互に連通させる遊嵌孔と係合孔を脚ホルダに設け、遊嵌孔または係合孔に移動可能なキー部材を脚の上部に設けると共に、遊嵌孔にキー部材を内挿時に脚を折畳み方向に移動させる脚引張り部材を脚下端部に連結させたことを特徴とする荷物載せ台。

【請求項2】

係合孔にキー部材を係入固定させる脚起立保持用のワンタッチ式ロック部材をテーブル本体と脚間に介設させたことを特徴とする請求項1記載の荷物載せ台。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、トラックの箱形荷台またはコンテナ等を上下に仕切って荷台空間を有効に活用する荷物載せ台に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、荷物を多段に積載させる技術がある。(例えば特許文献1参照)

【0003】

【特許文献１】特公平８－１８５０８号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

前記従来技術は、上下多段に荷物を載せることができるが、トラックの荷台に支柱（脚）を固定させ、上下段アーム（テーブル本体）を昇降シリンダによって上下に移動させるから、前記の支柱及びアームの折畳または分解などを容易に行い得ず、例えば往路で軽量貨物を二段積み運搬しかつ復路で重量物を一段積み運搬する作業などを容易に行い得ない等の問題がある。

【課題を解決するための手段】

10

【０００５】

そこで本発明は、請求項１の如く、トラックの箱形荷台を上下に仕切るテーブル本体に、トラックの箱形荷台の約半分の高さの脚を折畳み自在に設ける荷物載せ台において、矩形のテーブル本体の対向する側部に脚ホルダを固定させ、互に連通させる遊嵌孔と係合孔を脚ホルダに設け、遊嵌孔または係合孔に移動可能なキー部材を脚の上部に設けると共に、遊嵌孔にキー部材を内挿時に脚を折畳み方向に移動させる脚引張り部材を脚下端部に連結させたものである。

【０００６】

また、請求項２の如く、係合孔にキー部材を係入固定させる脚起立保持用のワンタッチ式ロック部材をテーブル本体と脚間に介設させたものである。

20

【発明の効果】

【０００７】

然るに、本発明は、トラックの箱形荷台を上下に仕切るテーブル本体に、トラックの箱形荷台の約半分の高さの脚を折畳み自在に設ける荷物載せ台において、矩形のテーブル本体の対向する側部に脚ホルダを固定させ、互に連通させる遊嵌孔と係合孔を脚ホルダに設け、遊嵌孔または係合孔に移動可能なキー部材を脚の上部に設けると共に、遊嵌孔にキー部材を内挿時に脚を折畳み方向に移動させる脚引張り部材を脚下端部に連結させたもので、脚の横倒しによってテーブル本体を低くし得、貨物に合わせてテーブル本体を高くしたり低くして各種の貨物を効率良く運搬し得ると共に、脚の横倒しを地上より容易に可能とさせるものである。

30

【０００８】

また、請求項２の如く、係合孔にキー部材を係入固定させる脚起立保持用のワンタッチ式ロック部材をテーブル本体と脚間に介設させたもので、フォークリフトカーのフォークを用いてテーブル本体を持上げたり降ろして、脚を起立させたり倒状させる作業を容易に行い得ると共に、脚の起立時には正確な起立姿勢を安定保持させるものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００９】

以下、本発明の実施例を図面に基づいて詳述する。図１は全体の正面図であり、四角パイプで形成する格子形のテーブル本体１と、平面視矩形のテーブル本体１の対向する側部下面に固定させる脚ホルダ２と、脚ホルダ２に折畳み自在に設ける脚３とを備えるもので、図２、図３のように、フォークリフトカーのフォーク４によってテーブル本体１を支えて脚３を起立または倒状させ、図３の状態ではテーブル本体１と脚３の間に木材製のスパーサ５を挟んでフォーク４を出入させる空間６を形成する。

40

【００１０】

さらに、図４、図５に示す如く、横フレーム７と二組４本の縦フレーム８と上下２本の補強フレーム９によって脚３を構成し、端面が楕円形の平板形のキー部材１０を縦フレーム８の上端に固定させ、キー部材１０の長手方向と略同一直径の円形の遊嵌孔１１と、キー部材１０の端面と略同一大きさの長孔形の係合孔１２とを脚ホルダ２に開設させ、遊嵌孔１１上部と係合孔１２下部を連通させて各孔１１・１２間で移動自在にキー部材１０を内挿させ、係合孔１２にキー部材１０を係入させて縦フレーム８を起立姿勢でホルダ２に

50

固定させ、テーブル本体 1 を縦フレーム 8 によって所定高さに支える一方、フォーク 4 によってテーブル本体 1 を持ち上げることににより、キー部材 10 が遊嵌孔 11 に移動し、キー部材 10 を支点に縦フレーム 8 が回転して倒状する。なお、図 3 のように、縦フレーム 8 が倒状しているとき、フォーク 4 によってテーブル本体 1 を持ち上げることにによって縦フレーム 8 が垂直方向に回転し、次いでテーブル本体 1 の下降によって係合孔 12 にキー部材 10 が係入する。

【0011】

また、図 6・図 7 のように、脚 3 の横フレーム 7 側面に軸 16 の両端部を固定させ、横フレーム 7 側面の切欠 17 を介して軸 16 の中間に丸パイプローラ形の輪体 18 を回転自在に軸支させ、図 2、図 3 のように、脚 3 が倒状姿勢のときに輪体 18 を床面上に転動させ、脚 3 の起立動作をスムーズに行わせる。なお、複数のテーブル本体 1 を並設させるとき、隣り合う脚 3 の補強フレーム 9 をボルト孔 19 を介してボルト止め固定させ、脚 3 を連結させて複数のテーブル本体を連設させる。

10

【0012】

さらに、図 4 のように、テーブル本体 1 と上補強フレーム 9 との間に脚起立保持用のワンタッチ式ロック部材 13 を設けるもので、上補強フレーム 9 の上部取付台 14 にロック部材 13 の 1 つであるパッチン錠 13a を取付けると共に、パッチン錠 13a の係止輪体 13b を係合させるフック 15 をテーブル本体 1 下面に固設させて、キー部材 10 を係合孔 12 に係入させた状態でフック 15 にパッチン錠 13a を係合させるとき、脚 3 を垂直姿勢で起立保持させる。

20

【0013】

そして、左右縦フレーム 8 の下端部でトラック 20 の箱形荷台 21 の荷物積み降ろし側に係止金具 22 を固定させ、紐或いはワイヤなどの引張り部材 23 先端に固定させる抜付フック 24 を係止金具 22 に係合させ、図 1 のようにテーブル本体 1 の下面略中央に回転板 25 を介し方向自在に配設させる滑車 26 に引張り部材 23 中間を巻回させ、引張り部材 23 の他端の引張り操作部材 23a を荷台 21 側方まで臨ませて、脚 3 の起立状態でフォーク 4 によりテーブル本体 1 を若干持ち上げてキー部材 10 を遊嵌孔 11 に移動させるとき、引張り部材 23 を引張って脚 3 を内方向に傾け、以後はテーブル本体 1 の自重により脚 3 を折畳みさせるように構成している。

【0014】

30

なお、上述実施例ではテーブル本体 1 に滑車 26 を設ける構成を示したが、図 9 のように左右縦フレーム 8 の係止金具 22 間を 1 本或いは 2 本の引張り部材 23 で直接的に連結させ、引張り部材 23 中央に連結させる 1 本の紐など引張り操作部材 23 の引張りでもって脚 3 を傾けるようにしても良い。

【0015】

なおこのような引張り部材 23 は必要時のみに取付け、運搬時や貨物 27・28 積み降ろし時には適宜取外すものである。

【0016】

本実施例は上記の如く構成するものにして、図 8 のように、脚 3 を起立させてテーブル本体 1 を高位置に設け、荷台 21 をテーブル本体 1 によって上下に仕切り、荷台 21 床面とテーブル本体 1 上面との 2 段に軽い貨物 22 を積み、荷台 21 を有効に利用すると共に、脚 3 を倒してテーブル本体 1 を荷台 21 床面の低い位置に設け、重い貨物 28 または高い貨物をテーブル本体 1 上面に積むもので、貨物 27・28 を荷台 21 側面からフォークリフトカーによって出入させると共に、同じフォークリフトカーを用いてテーブル本体 1 の上げ降しを行う。

40

【0017】

上記からも明らかなように、トラック 20 の箱形荷台 21 を上下に仕切るテーブル本体 1 に、トラック 20 の箱形荷台 21 の約半分の高さの脚 3 を折畳み自在に設ける荷物載せ台において、矩形のテーブル本体 1 の対向する側部に脚ホルダ 2 を固定させ、互に連通させる遊嵌孔 11 と係合孔 12 を脚ホルダ 2 に設け、遊嵌孔 11 または係合孔 12 に移動可

50

能なキー部材 10 を脚 3 の上部に設けると共に、遊嵌孔 11 にキー部材 10 を内挿時に脚 3 を折畳み方向に移動させる脚引張り部材 23 を脚 3 下端部に連結させたもので、脚 3 の横倒しによってテーブル本体 1 を低くすることができ、貨物 27・28 に合わせてテーブル本体 1 を高くしたり低くして各種の貨物 27・28 を効率良く運搬することができると共に、脚 3 の横倒しを地上より容易に可能とさせることができ、テーブル本体 1 を高低させる作業の作業性を向上させることができる。

【0018】

また、係合孔 12 にキー部材 10 を係入固定させる脚起立保持用のワンタッチ式ロック部材 13 をテーブル本体 1 と脚 3 間に介設させたもので、フォークリフトカーのフォーク 4 を用いてテーブル本体 1 を持上げたり降ろして、脚 3 を起立させたり倒状させる作業を容易に行うことができると共に、脚 3 の起立時には正確な起立姿勢を安定保持させることができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図 1】全体の正面図。

【図 2】折畳み途中の説明図。

【図 3】折畳み説明図。

【図 4】脚の説明図。

【図 5】脚ホルダ部の拡大図。

【図 6】輪体部の拡大図。

20

【図 7】同断面図。

【図 8】使用説明図。

【図 9】引張り部材の取付説明図。

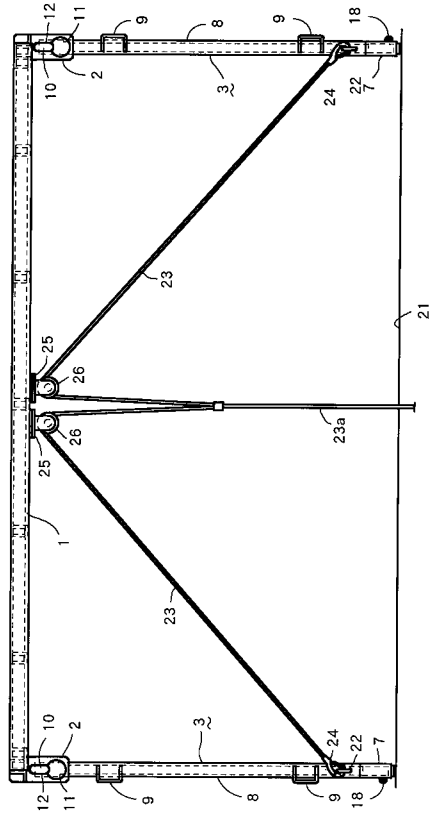
【符号の説明】

【0020】

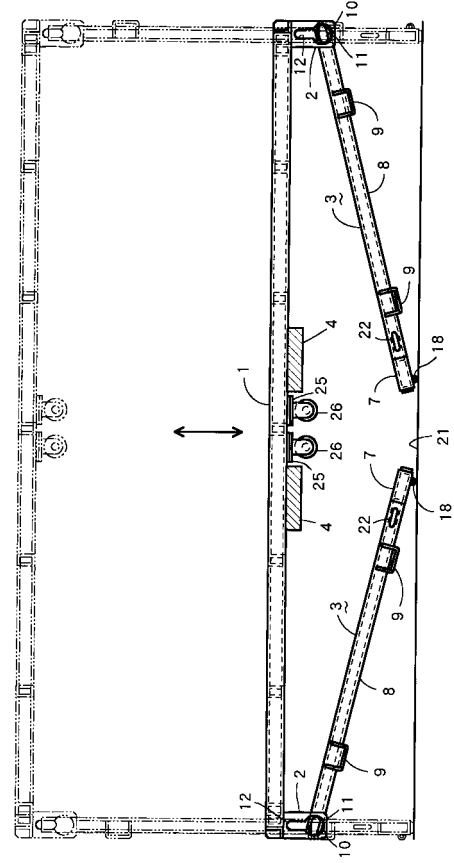
- 1 テーブル本体
- 2 脚ホルダ
- 3 脚
- 10 キー部材
- 11 遊嵌孔
- 12 係合孔
- 13 ロック部材（パッチン錠）
- 20 トラック
- 21 荷台
- 23 引張り部材（紐）

30

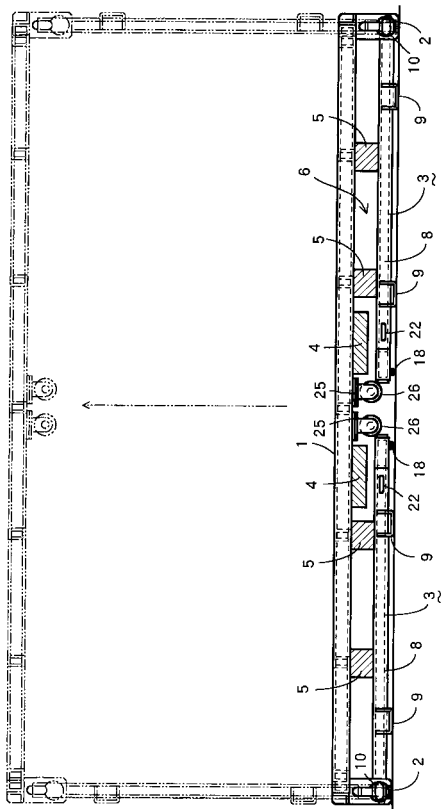
【図 1】



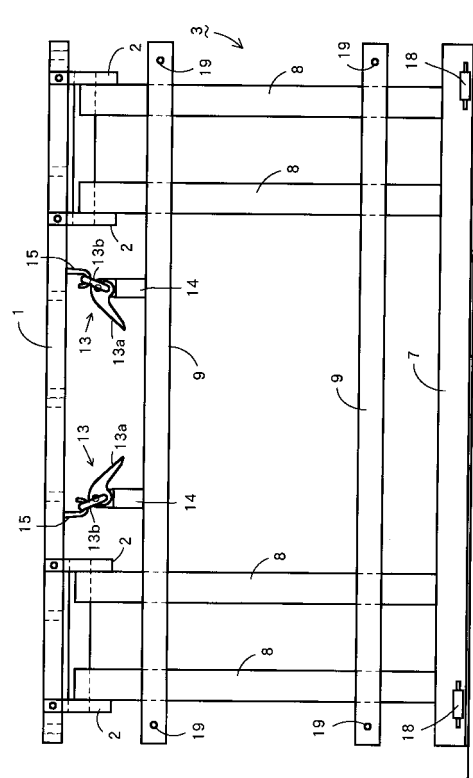
【図 2】



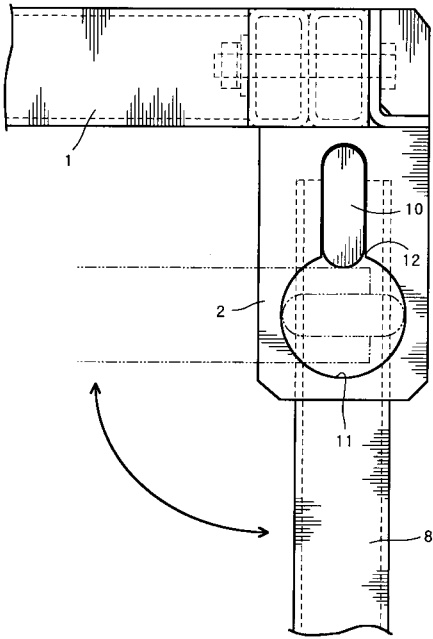
【図 3】



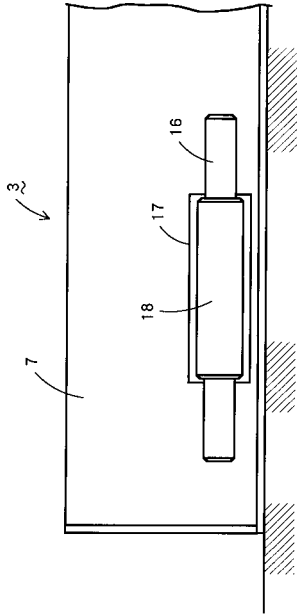
【図 4】



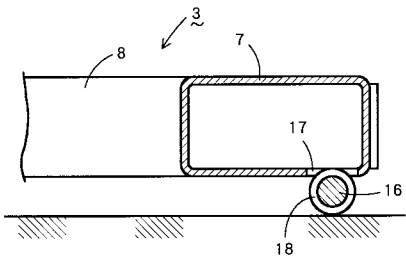
【図 5】



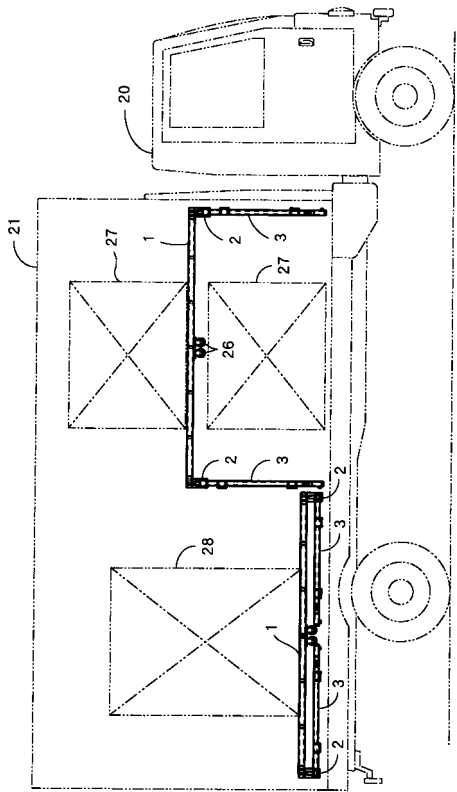
【図 6】



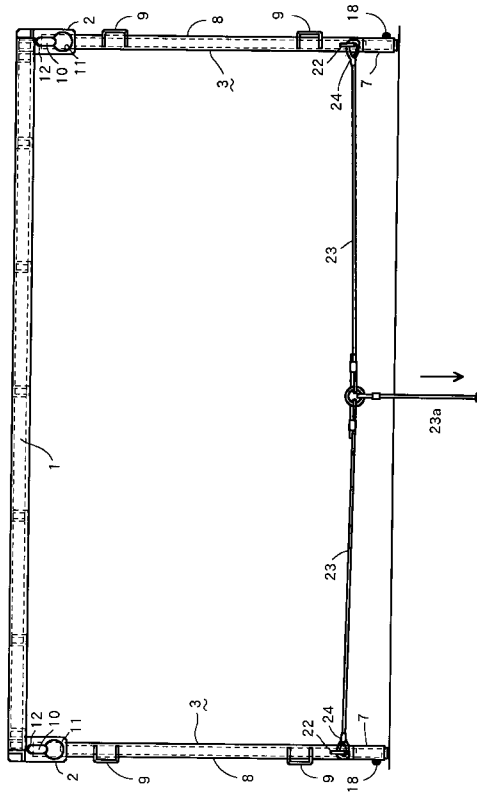
【図 7】



【図 8】



【 図 9 】



---

フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.<sup>7</sup>, DB名)  
B 6 0 P 1 / 0 2